

# 南三陸 復興まちづくり通信

第57号 (平成31年3月発行)



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。



## 三陸沿岸道路 南三陸町内を全通 気仙沼市へ延伸!

三陸自動車道の「歌津北IC(インターチェンジ)」～「小泉海岸IC」と、「本吉津谷IC」～「大谷海岸IC」間(4キロ)が2月16日、開通しました。町内4つ目となる歌津北ICの供用開始で、南三陸町内は全通しました。小泉海岸ICまでの延伸により、気仙沼市と仙台市が初めて高速道路で結ばれ、同区間の所要時間は10分ほど短縮。産業経済や観光の振興につながる事が期待されます。

歌津北ICに近い本線上で行われた開通式には、石井啓一国土交通大臣を始め、気仙沼市の菅原市長、南三陸町の佐藤仁町長、地域住民や関係者など約400人が参加。くす玉開きや、テープカットをし、風船を飛ばして開通を祝いました。

歌津北ICと小泉海岸ICは国道45号に接続し、仙台方面への行き来にのみ利用できる「ハーフインター方式」ですので、注意が必要です。

### 伊里前地区災害復旧工事説明会開催

歌津伊里前地区の災害復旧工事説明会が2月6日、歌津総合支所で開催され、地区住民などおよそ20人が出席しました。国交省仙台河川国道事務所や県気仙沼地方振興事務所水産漁港部、宮城県気仙沼土木事務所の担当者が、それぞれ国道45号線、伊里前漁港、伊里前川について工事の現況と今後の進め方について説明した後、質疑応答が行われました。国道45号南側のまちづくりに関して、役場企画課から、「伊里前まちづくり協議会から提出された『伊里前まちづくりマスタープラン』をベースにして進める」との説明がありました。



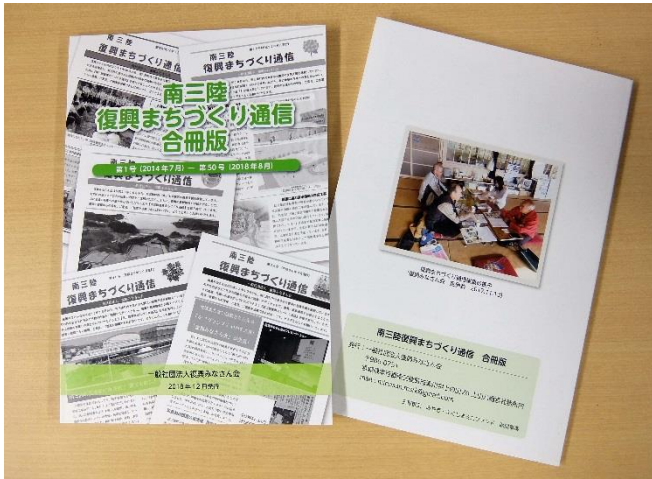
## 志津川西復興公営住宅集会所で交流ひな祭り

志津川西復興公営住宅集会所で2月8日、ひと足早いひな祭りが行われました。同公営住宅や隣接する防集団地の住民たちで組織する「ほっこり倶楽部」(佐藤さえ子会長、会員27人)が主催したもので、メンバーなど22人が参加しました。カラオケクラブの遠藤直行会長の音頭により甘酒で乾杯。「うれしいひなまつり」を歌ったり、桜餅や鶯餅をいただきながらお茶っこをしたほか、お弁当を食べ交流しました。



## 「復興まちづくり通信 合冊版」を刊行!

復興みなさん会では、平成26年5月の法人化を機に毎月1回「復興まちづくり通信」を発行しています。このほど三菱重工「みやぎ・ふくしまミニファンド」の支援をいただき、創刊号から第50号までの紙面をそのまま冊子化した「合冊版」を刊行しました。A4版、オールカラーで200部を印刷。全国の都道府県立図書館と県内市町村立図書館(計90館)のほか、これまでみなさん会の活動に支援をいただいた全国の助成団体、町内の関係先などに寄贈することとしています。



## 「みやぎチャレンジプロジェクト」へご支援を

宮城県共同募金会では、地域の課題解決に取り組む団体の活動資金を募る「みやぎチャレンジプロジェクト」を実施しています。2018年度の赤い羽根共同募金運動の中のテーマ型募金で期間は3月末まで。みなさん会ではほかの31団体と共に、活動資金を調達するために寄付の呼びかけを行っています。皆さまから頂いた寄付金は「椿はな咲くまちづくり」に全額充当して未来の町の防災・減災につなげていきます。どうかみなさん会の活動へのご支援をお願いいたします。

## 南三陸 椿物語 復興

椿の避難路づくりにご支援をお願いいたします

東日本大震災による大津波で大きな被害を受けた、宮城県南三陸町その町の中で、椿は運しく生き残っていました。いつかまたおなじような災害が起きては、命を失われる可能性があります。わたしたちは、津波からの避難路となる道づくりに椿を植える活動を始めています。椿の種を拾って、苗木を育てたり、椿の小物づくりをしたり、椿の油を活用して料理づくりをしたり、椿のまちづくりは様々な形で進めています。皆さまから頂いた寄付金は、この「椿はな咲くまちづくり」に全額充当して未来の町の防災・減災につなげていきます。南三陸 椿物語への ご参加 ご支援を よろしくお願ひいたします。

一般社団法人復興みなさん会 電話：070-5472-5930 メール：minasan.msrk@gmail.com 〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山26 上山八幡宮社務所内 ※この募金の活動期間は、平成31年1月1日から3月31日までとなります。



【雑感】復興の中で見られた寄り添い・伴走型支援をテーマに取り上げたシンポジウムが先日仙台で開催されました。その中で強力なリーダーがいらない地域では当事者＝住民だけが頑張るのではなく、地域に寄り添い支えていく支援者＝伴走支援者の存在が地域を変えていく上で大切だったとの指摘がありました。当会が実践してきた取り組みは、まさにこのような視点を大切にしてきました。しかし、東日本大震災の復興期間も残り2年。地域に寄り添い、伴走し支えてきた多くの住民・団体の活動も大きな転換点を迎えることになるでしょう。その時までには、制度設計者も地域社会も、平時にこのような支援をどう制度化し継続していけるか、一緒に考えないといけないと考えます。

## 一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山 26  
上山八幡宮 社務所内 [minasan.msrk@gmail.com](mailto:minasan.msrk@gmail.com)

当会は今年度、宮城県「みやぎ地域復興支援助成金」、南三陸町「おらほのまちづくり支援事業補助金」、東日本大震災現地NPO 応援基金〔特定助成〕「東日本大震災復興支援 JTNPO 応援プロジェクト助成金」、三菱重工「みやぎ・ふくしまミニファンド」の支援をいただき活動しています。